

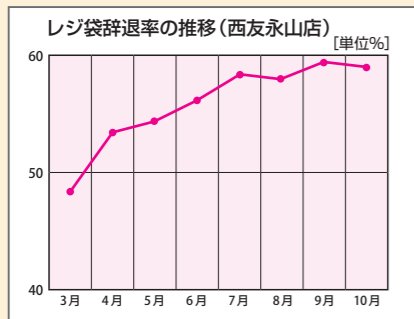
**ごみ減量 事業者の取組**

**トレイ削減の新たな工夫を開始 西友永山店** 多摩市 エコショップ認定店

●レジ袋やトレイを減らす取り組み

大手スーパーの西友は、昨年6月からレジ袋を辞退すれば2円割引するサービスを開始しました。さらに今年4月の有料指定袋制の開始後はレジ袋の辞退率が増加、永山店では約6割となっています。

また同社では、最近トレイ削減のため、トレイのせて販売していた冷凍エビを、真空パック包装に変更。今後は、ほかの商品にも導入する予定だといいます。同時に、トレイだけでなく、ペットボトルや紙パックの店頭回収にも力を入れています。



●店頭回収量が大幅に増加

今回、西友永山店を取材しましたが、特に有料指定袋制に移行した4月以降、紙パック、ペットボトル、トレイの回収量が大きく増加したそうです。

新制度に移行前の1～3月の平均と、移行後の4～10月の平均を比較すると、4月より多摩市の収集から店頭回収に切り替わった紙パックは1.9倍に増加。ほかにもペットボトルが1.7倍、トレイが1.2倍になっています。

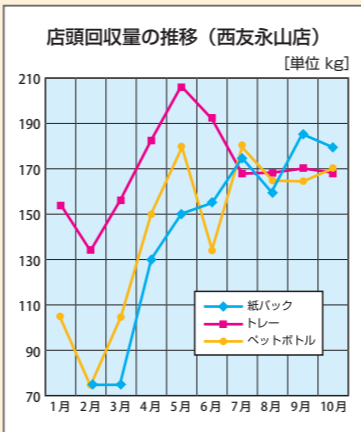
そのため、店内の回収ボックスがあふれてしまわないよう、日に3～4回も回収して保管。定期的に回収業者にわたしています。このような見えない努力に支えられて、店頭回収が行われているんですね。



日に3～4回、満杯になった回収ボックスの資源をリサイクル置き場に運んでいる



店内に置かれた資源回収ボックス。「家庭ごみを捨てないでください」のはり紙が…



リサイクル & エコロジー 情報紙



ACTA (アクタ) は芥 (あくた=ちり、ごみのこと)、そして英語のACT (アクト=行動する) という意味を含んでいます。さあ、あなたもごみの減量に向けて行動を始めましょう!

**特集 めざせ! ごみ減量日本一のまち**

今年4月以降、ごみ減量の成果とは? ..... 1

ごみ減量 各地域ではどんな取組が行われているの? ... 2 3

○都営聖ヶ丘1丁目自治会  
○あたご第2ブロック自治会  
○蓮光寺バシーナ管理組合

ごみ減量 事業者の取組 ..... 4

トレイ削減の新たな工夫を開始 西友永山店

情報コーナー ..... 4

○スプレー缶やライター  
「有害性ごみ」をお願いします!  
○イベント・お祭りのごみ減量  
「リユース食器」をご活用ください!

**めざせ! ごみ減量日本一のまち**

今年4月以降、ごみ減量の成果とは?

さらなるごみ減量をめざして、4月から始まった「有料指定袋によるごみ収集」と新しい分別方法。その結果、なんと「ごみ減量日本一のまち」になれるほどの成果が出ています。皆様のご協力に感謝して、市長のメッセージをお届けします!



ごみ減量のため日々活躍する市民ボランティア「廃棄物減量等推進員」が集まる会議で撮影。「ごみ減量日本一のまち」の方針を確認した (会議は5カ所実施。残りの4カ所の写真は2ページに掲載)

●ごみ減量15%、初年度の目標を達成中!

今年の4月から実施させていただきました「有料指定袋によるごみ収集」は、当初新しい分別がわかりにくかったり、指定袋が品不足になったりとご迷惑をおかけしました。



市長とごみ減量推進員の表彰状授与の様子。5月の「ごみゼロDAY」のキャンペーンで

現状は市民の皆様の資源分別や、ごみになるものを選ばないなどの努力のおかげで、初年度の目標「15%のごみ減量」で推移しています。皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

11月5日号「たま広報」の1面でも取り上げましたが、ごみ減量15%という目標は、市民1人1日当たりでは87グラムの減量です。標準的な4人家族では1日384g

ラム、1ヶ月では約10kg、1年ではなんと120kgものごみ減量になります。

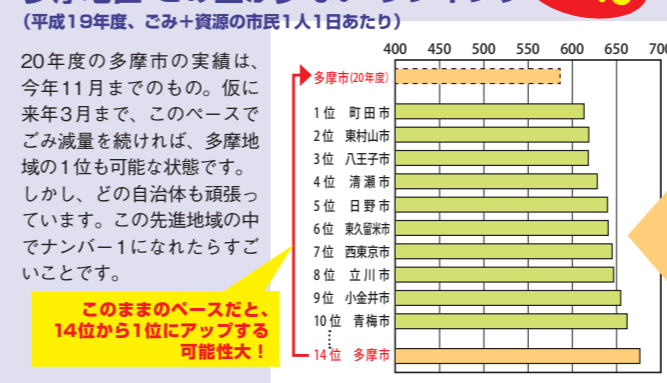
●日本で一番ごみが少ないまちも夢でない!

多摩市の平成19年度のごみ量は、多摩地域26市中22位と、ワースト5位でした(ごみ量のみで比較)。一方平成20年度は、4～11月のペースのまま、来年3月まで推移すると、多摩地域で上位のごみ減量のまちになります。多摩地域は資源化率が37%と全国一高いことから、多摩市が日本で一番ごみが少ないまちになることも夢ではありません。

そのためにも、家庭にごみになる物を持ち込まないライフスタイルで、地球温暖化対策にも有効で、環境に優しいごみの少ない街、多摩市にしたいと切に願っています! 市民・事業者・行政が協働して進めるごみ減量。「めざせ! ごみ減量日本一のまち」をスローガンにして、5年後に25%の減量目標を達成できるよう、今後もご協力をお願いいたします。 多摩市長 渡辺 幸子

- 多摩市はごみ減量日本一になるかもしれないんだね! そのためにはどうしたらいいんだろう?
- 1 すぐにごみとなるものを持ち込まない
  - 2 生ごみの自家処理(庭に埋める、処理機器を使う)
  - 3 資源は店頭回収、集団回収に積極的に出す

多摩地区 ごみ量が少ない ランキング ベスト10



このままのペースだと、14位から1位にアップする可能性大!

情報コーナー

スプレー缶やライター「有害性ごみ」をお願いします!



実際に収集車内で発火した時の様子

スプレー缶・カセット式ガスボンベやライターが「燃やせないごみ」に入っていたため、収集作業中に火災事故が発生するという事故が起っています。

スプレー缶・カセット式ガスボンベやライターは、燃やせないごみではありません。必ず「有害性ごみ」で捨ててください!

スプレー缶・カセット式ガスボンベライターの捨て方

- 1 必ず中身を使い切る
- 2 分別は以下の通り
  - 専用集積所のある集合住宅  
みどり色の有害性ごみ容器へ
  - 戸建住宅や専用集積所のない集合住宅  
透明か半透明の袋に入れて、燃やせないごみ(有料指定袋)とは分けて出してください



スプレー缶やカセット式ガスボンベが「燃やせないごみ」に入っていることが非常に多いのが現実

イベント・お祭りのごみ減量「リユース食器」をご活用ください!

多摩市では、市民の皆さんが主催するイベントやお祭りでもっていただくため、リユース食器を無料で貸出しています。

地球にも、お財布にもやさしいリユース食器を、ぜひ活用してください。数に限りがありますので、予約はお早めをお願いします。3か月前から予約を受けつけています。



10月25日～26日「ハロウィンin多摩センター2008」、リユース食器を活用する多摩青年会議所主催の炊き出しブース

種類	個数
リユースカップ 450cc	ポリプロピレン製、100または200個単位で貸し出し。貸出可能数800個
汁椀 400cc	フェノール樹脂と木粉の成型品、ウレタン塗装。45個入ケースと70個入ケース。ケース単位で貸し出し。貸出可能数230個
塗り箸	木製塗り箸。50または100膳単位で貸し出し。貸出可能数400膳

# ごみ減量 各地域ではどんな取組が行われているの？

ごみ減量が進んだのは、各地域での分別の徹底、集団回収の推進の結果です。その活動を推進しているのが、廃棄物減量等推進員（以降「推進員」と略）です。今回は市内3地域のごみ減量の活動を、推進員さんの活躍とともに紹介します。

推進員さんたちは、  
どんな仕事を  
しているの？



正式名称は廃棄物減量等推進員。市から委嘱されて、ごみ減量のために分別リサイクルの啓発を行うと同時に、地域の実態把握、地域での自主的な活動の中心役として活動しています。



推進員が集まる各ブロック会議で「めざせ！ごみ減量日本一のまち」の目標を確認した

## 地域密着 きめ細やかな働きかけが住民の意識を変えた 都宮聖ヶ丘1丁目自治会 田村藤子さん

### 手作りの資料が好評に

都宮聖ヶ丘1丁目自治会では、推進員をしている田村さんと、田中さん、それに笠継さん、高嶋さん、遠江さんを加えた5人が、「自治会ごみ推進員」として活動を続けています。

新制度に移行する4月の前には、新しい分別法を伝える勉強会を実施。さらに「自治会だより」や「環境ニュース」で、分別の注意点を徹底しました。

また、市の分別ガイドを参考に、分別やごみの出し方の資料を独自に作成。他地域の推進員などから「資料をわけてほしい」との要望も多いそうです。

### 小学生までが分別を意識するように！

さらに自治会ごみ推進員のメンバーは、ほぼ毎日団地内のごみステーションを巡回。分別の不備や収集日がちがっているごみ袋を見つけると、注意をうながす張り紙をつけ、ごみを出した人に自宅へ持ち帰ってもらうよう働きかけてきました。

「最初のうちは分別の間違いが多く、市の業者さんが収集してくれないごみが多かった。でも最近では、ほとんどなくなりました。団地内で遊んでいる小学生からは、『これって燃



自治会ごみ推進員として活躍する4人。左から田村さん、笠継さん、高嶋さん、遠江さん

やせるごみ？」と質問されたり。分別の意識が根づいてきたんだなあ、とすごく嬉しかったですね」（田村さん）

さらに資源の集団回収も徹底して行い、資源の買い取り金額と市の補助金を合わせた収入が、以前の約3倍に増加。自治会のイベントなどに活用しているそうです。

取材中「自治会ごみ推進員」の5人から、「巡回中に『おはようございます』、『ご苦労さま』と声をかけられるのが嬉しい」「ごみを資源に変えるための分別法がわかり、自分自身の勉強にもなる」などの話をうかがい、皆さんのパワーの秘密が少し見えてきた気がしました。



ごみの出し方をわかりやすく説明。住民の方の手書きの看板



以前は、入れ方を説明するプレートが壁面にあった(写真上)が、入れ間違いが多かった。そこで網の前面にプレートをぶら下げる方法に変更(写真下)したところ入れ間違いが激減

ごみの分別に問題がないかチェック

## 地域の環境を見直すことが、ごみ減量にもつながる！ あたご第2ブロック自治会会長 佐藤浩康さん

### 分別が不十分なのは、団地の不名誉

あたご第2ブロック自治会会長の佐藤さんは推進員になって5年目。当初はごみの出し方に問題がないか、毎日見回りをしていました。

最近では、防犯と違法駐車チェックのための夜回りの際に、ごみ出しのチェックもしています。問題があると、各棟の責任者に連絡。責任者が、問題のごみ袋にメモをつけます。理由は、市の収集業者に「イエローラベル」を貼られるのを避けるためです。

「皆さんには『イエローラベルはこの団地の不名誉だから、気をつけてくださいね』とお願いしているんです」（佐藤さん）  
こうした地道な活動に加え、4月の有料指定袋制以降ご

の量がぐっと減りました。  
「紙類や雑紙は資源として、プラスチックはきれいに洗って出す方が増えてきましたね。この団地では、ごく一部の方を除いて



自治会会長で推進員の佐藤さん。寒空の中、団地中を丁寧に案内してくれた

団地の一角に、剪定した枝や抜いた雑草を保管するスペースを確保。団地内の環境整備の具体策

しっかり分別をしてくださっています」（佐藤さん）

### 環境整備が思わぬ効果を...

もうひとつの大きな転機になったのが団地の環境整備です。

2年前、団地内の木が茂ってあちこちに死角ができ、安全上問題があるほどでした。そこで、環境対策部長の永沢さんが中心となり、住民の皆さんと協力して木の手入れを実施。切った枝はなんと1000束もあり、細かい枝などは3800袋もあったそうです。

「自分たちの団地は、自分たちできれいにしようということですね。木を切ったら、団地の周りにごみを捨てる人がい

なくなっし、ごみの出し方も良くなりました。まず、団地の環境を整備することが大事だと思います」（永沢さん）



倉庫内には芝刈り機が…。各棟の責任者が、周りの芝生を手入れする際に使用

## 集団回収 これから始めるには何が必要？ 連光寺パシーナ管理組合理事長 中村俊幸さん

### 資源量の把握がポイント！

今年8月に始まった集団回収の推進役を務めたパシーナ管理組合理事長の中村さんは、同じ8月から推進員になりました。「もともと、うちのマンションでもごみ減量を進めたいと思っていました。そのためには集団回収が有効だし、私自身が推進員になった方が活動を進めやすいと考えたんです」

集団回収の準備がスタートしたのは今年3月。多くの居住者が集まる総会で、集団回収でどのくらいのお金が入るかを説明。その後は、インターネット上の居住者限定の掲示板で集団回収の情報を流すと同時に、質問に答えていきました。「準備段階で重視したのは資源量の把握。量がわかれば、置き場所として必要な広さがわかります。場所がないと、居住者の皆さんに協力をお願いできませんから」（中村さん）

同時に、居住者の負担を最小限にするため、従来のごみの出し方をできるだけ変えずに移行するよう工夫しました。

### 環境を整え、実績を数値で開示する

集団回収の開始後は、昼間は管理人さんがごみ置き場を見回り、違う場所に捨てられた資源を正しい場所に移動。夜は、会社から戻った中村さんが、ほぼ毎日チェックしました。「きちんと分別されていれば、後から来た人も、ちゃんと分別してくれます。いつもルールが守られているように維持す



理事長で推進員の 中村さん

2カ所ある資源置き場のうち小さい方を見学。資源が整然と置かれていた



ることが、居住者の皆さんの意識づけにつながると思います」（中村さん）

今後の課題は、ごみ減量化のためにも、どれだけ資源量を増やせるかです。

「各資源の量を、数値で開示することが大切だと思います。その際、他のマンションの数値と比較できれば、いい意味での競争意識も働く。そのためにも、市のごみ対策課の方にもより一層の協力をお願いしたいですね」（中村さん）

中村さんは、集団回収を始めたい地域の担当者から希望があれば、マンション内を案内したり、相談にのったりしたいと考えているそうです。

各地域間の交流が進み、集団回収を行う団体が増えるきっかけになることを期待したいと思います。



一升びんとビールびんも分別。入れ間違いがないよう、酒屋のケースをそのまま活用

週末には、中村さんと一緒に一升びんとビールびんを回収する。理由には、資源量を確保するため



ごみ置き場に掲示してある、分別方法の説明書。市のキャラクターを使用したのは、子どもにも興味を持ってもらうための工夫